

リスク対処戦略としての農業外就労 —ザンビア南部州における家計調査に基づく予備的実証—

櫻井武司
和光大学

本稿は、総合地球環境学研究所のレジリアンスプロジェクトのテーマ2として実施した家計調査の予備的分析結果を提示するものである。社会生態システムの脆弱性とレジリアンスについて考察する際に、所得が低下し消費が減少するようなショックを受けた農家家計が、消費水準をいかにして回復するかを精査することは極めて重要である。もし、消費水準の回復が迅速であれば、そのような家計は、消費水準の回復が困難な家計と比べてレジリアンスが高いと考えられる。レジリアンスプロジェクトのテーマ2は、大きく変動する降水量が農家家計にしばしば負のショックを及ぼしているザンビア南部州を調査地に定め、農業生態的に異なる3つの地帯に分布する48戸のサンプル家計を対象に実施した家計調査データをに基づき、家計レベルのレジリアンスの証拠を明らかにし、その決定因を解明することを目的とする。

サブサハラ・アフリカの農家家計は、様々な外生的ショックが存在する中で消費を平準化するために、ショックの事前のおよびショックの事後的な多様なリスク対処戦略を採用している。テーマ2が実施する家計調査は、家計レベルで潜在的な利用可能性のあるすべてのリスク対処戦略を評価できるようにデザインしてある。数あるリスク対処戦略の中で、本稿は農業外就労に焦点をあてた。なぜなら、調査地において農業外就労は農家家計の重要な所得源になっているからである。

まず、家計構成員の毎日の時間の使い方に関する週ごと聞き取り調査に基づいて、6種類の活動への家計の時間配分（大人1人あたり、1日あたりの時間数）を求めた。次に、サンプル家計の平均値と分散を、作付期間中の3時点で比較した。3時点とは、植え付け期（時期1）、収穫前（時期2）、収穫後（時期3）である。その結果、農家家計は、農業については時期1に、非農業については時期3に、それぞれ他の時期と比べて有意に長い時間を費やしていることがわかった。しかし、時期3であっても、非農業の労働時間を増やさない家計もあれば、増やしている家計もある。そのため、非農業への配分時間の分散は、時期3が他の時期よりも有意に大きい。これらの結果は、一部の（すべてではない）家計が、作付期中に受けた農業生産ショックに対処する事後的戦略として非農業活動に従事していることを示唆している。しかし、これだけでは結論を出すには十分ではない。まず、非農業就労を、事前的对処部分と事後的対処部分に分ける必要があり、さらに事後的に非農業に従事した場合に消費が実際に平準化しているかどうかを検定しなければならない。このような頑強な分析は、将来の課題として残されている。現在進行中の週ごと聞き取り調査に、農家圃場ごとの降水量記録、さらに毎週実施している家計構成員の身体計測を合わせれば、非常に豊富な情報量のあるデータセットが完成し、変動する環境下における家計レベルのレジリアンスを解き明かすことが可能となるであろう。